

2019年日本平和大会の獲得目標について

——参議院選挙結果も踏まえて、次のことを重視して取り組みを進めます。

2019年7月26日

なくそう！日米軍事同盟・米軍基地 2019年日本平和大会実行委員会

参議院選挙は、憲法とくらしを守る市民と野党の共闘が安倍政権を支える自公勢力と対決する構図が鮮明となり、32の一人区で野党統一候補が10勝する大きな成果を生み出しました。この結果、自民党は単独過半数を割り、参議院での改憲派3分の2議席占有状況が打ち破られました。これは、安倍首相のめざす9条改憲策動に重大な打撃を与えるものとなりました。

また、沖縄で辺野古米軍新基地建設反対の民意を代表する野党統一候補が圧勝し、秋田で陸自「イージス・アショア」ミサイル基地配備反対の野党統一候補が勝利するなど、日米軍事同盟強化のための理不尽な軍事基地強化に反対する、重要な成果も生まれました。

この結果は、市民の運動を草の根からさらに広げ、市民と野党の共闘をいっそう力強く発展させるならば、安倍政権の暴走を打ち破ることができることを、力強く示しています。この流れを次の総選挙へとさらに発展させ、安倍政権を退場に追い込むことが求められています。

また、トランプ大統領の「日米安保をもっと自衛隊が米軍を助けるものに変えるべき」との発言に見られるように、憲法9条改悪策動のねらいは、日米軍事同盟を世界規模に強化し、アメリカの戦争に自衛隊が「血を流して貢献」できるようにするものです。日米軍事同盟の危険性を明らかにし、これに反対する国民の運動が前進することは、改憲阻止の運動を前進させる上でも極めて重要になっています。

参院選後、安倍首相は、選挙結果を「憲法論議を進めるべきという民意だ」と逆を描き、任期中の改憲発議・国民投票をめざすと言明しています。また、沖縄新基地建設、秋田・山口への「イージス・アショア」配備などを、民意を無視し引き続き推進しようとしています。さらに、中東・ホルムズ海峡での「航行の自由」「海洋安全保障」を目的とした米政府からの有志連合構想の呼びかけに、自衛隊派兵で応えることも検討しています。こうした動きは、国民との矛盾をいっそう深め、新たな国民の共同のたたかいを呼び起こすものです。

2019年日本平和大会 in 沖縄は、参院選の成果を踏まえ、憲法と平和を守り、沖縄新基地建設反対、「イージス・アショア」配備反対はじめ軍事基地強化・「戦争する国づくり」に反対する国民の共同の運動をいっそう発展させる大会です。同時に、日米軍事同盟の危険性を明らかにし、米軍基地も軍事同盟もない憲法の輝く平和な日本と北東アジアの展望を明らかにする大会です。この大会を、来る総選挙で憲法を守る市民と野党の共闘でさらに大きな成果をつくり出し、安倍政権を退場に追い込む展望を開く大会にしていきましょう。

【大会を成功させるために、以下の獲得目標を重視して、取り組みを進めます】

- ◆大会に向けて諸団体、各地域で学習パンフレットを普及し、学習運動を広げましょう（3万部以上の普及めざす）。これと結び、各地で沖縄県民のたたかいに連帯する行動、安保・基地強化反対の運動に取り組み、大会に持ち寄りましょう。各県・地域での平和大会や学習交流集会、基地行動など、運動の節目となる企画を具体化し、取り組みましょう。
- ◆各団体、多くの地域からの参加者組織を積極的に進めましょう。特に、青年、女性、初参加者の組織を重視し、活動の輪を広げる機会にしましょう。そして、大会で大いに学び交流し、その成果を各地に持ち帰って、運動を継続発展する力になる大会にしましょう。
- ◆参加目標は、前回の沖縄での2011年日本平和大会を上回る、全国1000人、沖縄400人をめざします。